

(言語活動)

「言語活動の充実を図る授業」

—聞いて・考えて・言葉で表す授業のさらなる構築—

大阪市立焼野小学校

1. 研究主題設定の理由

情報化やグローバル化など急激な社会変化の中で、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現することが求められている。私たちは、子どもの学力向上にむけて、子どもの学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、さらには言語活動を充実させることが必要である。

本校はこれまで平成25年度より、言語活動の充実を図る研究を進めてきた。その成果として、本校児童の言語活動に対する関心・意欲の向上がみられた。また、全国学力・学習状況調査や経年テストの結果からも、言語活動の充実による有効性を確認することができた。しかし、まだ子どもの実態は二極化傾向にあり、今後も言語活動の充実を図る授業を構築していくことが必要であると考えた。

そこで、言語活動のさらなる定着を図るために、本年度も「聞いて・考えて・言葉で表す」授業の充実を主題と設定した。そして、習得した知識・理解を根拠に、自分の考えを分かりやすく「伝え合い」、互いに「聞き合い」、様々な考えを多面的・多角的に捉えながら、子ども一人一人の学びを深めるようにしたい。このように、知識・理解を活用し、子どもどうしの「学び合い」に重点をおいた授業を積み重ねることによって、言語活動を充実させることができると考えた。

2. めざす子ども像

子ども同士が協働して問題を解決する授業では、「正解や間違い」にこだわらず、多面的・多角的なものの見方ができるようにすることが、様々な角度から物事を考える力につながると考える。協働して解決する話し合いでは、様々な考えを「聞いて比べる」ことや「聞いて反論する」こと、「聞いて付け足す」こと等、言語活動を通して、自分の考えを構築していくことができるようにすることをめざす。

また、協働的に「学び合う」ための子どもの思考の種類を以下のように記す。

○順序…物事の手順・時間・空間・因果・関心の強さや重要さなどで順序づける力

「はじめに、次に、そして、最後に～です。」

○比較…同じところ、似たところ、違うところなどを比べ、性質や特徴を明らかにする力

「AとBの違いは～」「Aと違ってBは～」「AよりもBの方が～」

○類別…目的に合う観点を決め、いくつかの物事を他と区別したりまとめたりする力、類や層を明らかにする力

「○○は～の仲間です。」「三つに分けられます。一つは～です。もう一つは～です。最後は～です。」

○理由づけ…物事の結果を引き起こした原因・判断を下した主な理由や因果関係を明らかにする力

「なぜ～でしょうか。」「～なので～。」「だから～です。」「～は～のためです。」

○定義づけ…物事を抽象化して表したり、簡略に表したりする力

「○○を～とよんでいます。」「○○というのは、～のことをいいます。」

○推理…知識や経験をもとに、「知らない・わからない・これから」などの物事について筋道を立てて推し測る力

「もし～だったら～にちがいない。」「～なので～するはずです。」

3. 研究の視点

視点1 互いに聞き合い、伝え合い、協働して問題を解決する子どもの育成

まず、子どもが協働的に問題を解決したいという意欲を高めるために、導入場面を大切にする。また、子どもが考えたいと思うための授業構成と発問を吟味し、考えたいと思う場面を探る。

聞き合い・伝え合いの場面では、比較したり、関連付けたり、統合して考えたりすることが大切である。この活動は子どもの実態に合わせてペアやグループ、学級全体といった学習形態を工夫していく。また、指導者の発問や板書によって、集団の考えを深めるための手立てを工夫して行う。

視点2 分かりやすく伝える子どもの育成

同じ考えであっても何をもとにして考えたのか、結論に至るまでの道筋は一人一人違っている。考えの道筋を互いに「伝え合う」ことで、一人一人確かに伝わると考える。

そこで、指導者は、常に子どもに根拠や理由等を問うことを大切にする。子どもは、自分の考えとその道筋や根拠等を整理するために書き、書いた考えを分かりやすく伝える。分かりやすく伝える姿を、伝える相手や伝え方を意識し、聞き手を説得する子どもの姿としてとらえる。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 2013年度より、「言語活動」に関する研究を進めている。アンケート結果からも、研究を始めてから継続して言語活動に対する意識の向上が見られた。
- 教科横断的に言語活動を行うことによって、体育・音楽・家庭科など、様々な教科で言語活動を行うことができた。また、委員会活動でも言語活動を通して児童が主体的に活動できた。

(2) 今後の課題

- アンケート結果より、「きいている人が納得できるように根拠を明確にして説明している。」の項目が特に低かった。今後、論理的に考え、自分の意見を表現できるように、6年間を見通し授業を進めていく必要がある。

自分自身を振り返ってみよう！				
6年 組 ()				
		とてもあてはまる	ややあてはまる	あてはまらない
1.	1日1回以上、手を挙げて発表している。			
2.	授業中、自分の考えを言うことが楽しい。			
3.	授業中、自分の考えを書くことが楽しい。			
4.	友だちの顔をみて、発表している。			
5.	ペアやグループの中で、自分の考えを言っている。			
6.	きいている人が納得できるように根拠を明確にして説明している。			
7.	なんとなくや、決めつけではなく、よく考えている。			
8.	友だちの考えと自分の考えを、比べながらきいている。			